

## 教育課程特例校 英語科の学習について

令和6年度第1回学校運営協議会 にて

【6年生 Unit2の学習の様子を見て】 担任とALT(ダブリン先生)による授業を見て

- ・中学校での英語の学びの準備として、大変よい取り組みだと感じた。
- ・主に「話す」、「書く」を学べる環境があり、今の子どもたちは本当に羨ましい。
- ・楽しみながら得意教科となるように授業を進めていただきたい。
- ・小学生のころから英語に接する、勉強することは大変重要であると思う。
- ・「聞く」→「話す(コミュニケーションする)」→「書く」→という流れで授業を進めていくのがとてもよいと思った。単語や文法の勉強よりも、まず、英語が楽しいものだ教えていただき、苦手意識をもたずに中学生後に入っていけたらと思う。
- ・小学校で「書き」まで含めてしっかり指導されていることがよく分かった。であるからこそ、小中の接続を具体的に考えていくことが大切だと思った。
- ・自分の考えを英語でうまく伝えられるようになるとよい。英語を聞き取る能力も付けてほしい。
- ・外国の先生と「話す」機会はとても有意義で、継続してほしい。休み時間にも一緒に遊びながら英語でのコミュニケーションがあるのは、非常に印象深く吸収しやすいと思った。
- ・ネイティブの先生と触れ合うこともとても重要だと思った。ダブリン先生が授業以外の所でも子どもたちと関わっていると聞き、うれしく思う。
- ・小学校のうちから外国人の先生との授業ができることはとてもよい。抵抗感がないうちに始められるとよい。
- ・子どもの負担にならないよう、楽しみながら会話が学べることが大切だと思う。外国の先生の英語を聞きながら学べることは大変よいこと。
- ・教科となったことで、学級担任がどれほど指導にあたれるかが大きな課題。
- ・小学校から広く、深く英語に触れられることは、大変いいことだと思う。
- ・小学校から取り入れられるのは、とてもよい。学年が上がっていくにつれ、英語だけでインプット、アウトプットができるようになってほしい。

(中学校との連携)

- ・小中9ヶ年を見通して、履修内容や目標については、今後も小中で共通理解を図っていく。
- ・小中の接続を意識して、職員(教員)の交流を推進していく。